東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１１年１０月７日

クルアーンの徳

親愛なるムスリの皆様

イスラームの教えは、私たちの神の物質的・精神的な定めを含む唯一の真の教えです。だからこの教えの、幸せのための決まりを示しているクルアーンを、ムスリムそれぞれが十分に知ることが必要なのです。アッラーによって下されたクルアーンは人々に何を語り、どこへと導いているのでしょうか。クルアーンは人々を救いへと、愛情へと、友情へと、そしてアッラーへと導いているのです。現世と来世において私たちを幸福にし、救いへと導く唯一の手段はクルアーンです。なぜなら預言者ムハンマドは「わが友よ。あなた方に二つの信託を残していく。あなた方がそれに従う限りあなた方は苦しむことはないだろう。それはアッラーの書であるクルアーンと、私のスンナである。」と仰せられているからです。クルアーンはその章句を読み、詳しく学び、そこで定められていることを実行するために下されたものであることを認識しなければなりません。

クルアーンは人々の物質的・精神的世界を輝かせる知と徳の源です。ムスリムではない学者たちですら、良心の喜びと共にそれに傾倒する、生命の源泉です。クルアーンは無力な人間の頭脳が導き出した道徳本もしくは禁止事項集ではありません。そのようなものではないからこと、時の経過や場所の変化がそれを古いものとすることはなく、効力を失うこともないのです。それはいつでも鮮やかに新しく、完全です。クルアーンの全ての言葉は、過去と未来に光をともします。人々により高められ生きることへの熱意を与えます。クルアーンを読むことは一つの崇拝行為であり、その意味を理解しようと努力することもまた同様です。それを読む目的はしもべとしてのつとめを知り、心のうちにある苦しみや孤独を取り除くことであるべきです。クルアーンがこの目的で読まれるなら、それは読む者への仲裁者となるでしょう。つまりクルアーンは薬のようであり、人はそれを服用しただけの効用を得るのです。

人間のニーズを最もよい形でご存知である崇高なるアッラーは、真のやすらぎがただクルアーンとイスラームに存在することを教えておられます。「本当にこのクルアーンは、正しい（道への）導きであり、また善い行いをする信者への吉報である。かれらには偉大な報奨が授けられる。」（夜の旅章９）クルアーンに近づく人は、真に正しい道を見出します。だからクルアーンは、全人類へと下された奇跡の書なのです。クルアーンの言葉は歴史の闇に光をともし、隠された問題を解決し、現世と来世の幸福を獲得させる奇跡の書物です。私たちに過ぎ去った時間、過去の民族の出来事を語りつつ、警告と英知をも教えているのです。なぜならクルアーンは人間の言葉ではなく、人々にありようを教える神の言葉であるからです。アッラーが私たちをクルアーンの光の道から遠ざけられることがありませんように。そのために奉仕すること、それを守ることを私たちができるようお許しくださいますように。